

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	24 スポーツ科学科	責任者	藤田 和博	
基準5	学生の受け入れ	自己評価	A	
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
<<回答>> 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入試を実施しており、学生募集や入試の運営体制について適切と判断する。学科の入学者数は、学科の収容定員に対して適正な充足率を維持しているとしてA評価の判定とした。				
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。			
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） スポーツ科学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. 知識・技能 スポーツ科学を学ぶための十分な基礎学力及び実技能力を有している。 2. 思考力・判断力・表現力 自己の考えを明確に表現し、他者の意見を素直に聞くことができる。 課題に対して論理的に考察することができる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 スポーツ科学、スポーツ指導に強い関心を有している。 社会の諸課題に対して自ら学ぼうとする高い学習意欲を持ち、継続的な努力ができる。 人と人のつながりの重要性を理解し、他者を積極的に理解しようとする姿勢をもっている。			変 更	有（ ） 無（○）
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15			
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針			
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針			
◆学生の受け入れ方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）				
<<回答>> なし				
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。			
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、B5-2 入学試験要項（一般、公募制推薦、自己推薦、社会人、編入学、科目等履修生、外国人留学生）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程			
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報			

評価の視点3※	学科ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11*入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。	
≪回答≫ AP と各入学選抜試験との関連性について、各選抜試験別の AP1(知識・技能)・AP2(思考力・判断力・表現力)・AP3(主体的に学習に取り組む態度)との関連性を HP 上で公開している。その公開内容に沿った入学者選抜を実施できるように、大学共通テスト利用入試および一般選抜入試に関しては、該当試験科目の総合点から合否判定を行い、自己推薦、公募推薦、スポーツ推薦の各入試については、面接対応シートを作成し、面接担当者間に質問の偏りが生じないよう配慮している。 入試担当者については、入試広報課とのやり取りの上で、全教員で協力・分担のうえで実施している。	≪資料名≫ 24-C5-1：スポーツ科学科入学者選抜実施取組根拠資料
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）	
≪回答≫ オンラインによる入学者選抜は実施していない。	
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。(一般入試及び多様な入試への対応) 根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程
★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）	
≪回答≫ オンラインによる入学者選抜は実施していない。	
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。(ない場合は「なし」と記入)	
≪回答≫ なし	
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学科の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16
評価の視点2※ 【基礎要件●】	学科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。	
≪回答≫ 本学科の入学定員に対する超過率について、2023 年度入試に関しては 1.25 を超過する結果となった。しかし、学部全体での超過率は 1.13 であり、さらに、4 年間での学科収容定員に対する超過率は 1.12 であり、1.20 未満を満たしている。以上のように、本学科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持しているため、過剰および未充足に対する対応は行っていない。	≪資料名≫ 24-C5-2：なし

点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
「回答」	学生の受け入れの適切性を保つために、成績不振学生に対して、前期および後期の単位取得状況を学科教員全員に学科協議会で提示し、学年担任が面談を実施し作成した報告書を元に学科主任、学年担任が学生の現状を把握している。その上で、入試委員会において各入試の入試概要(受け入れ人数等)を検討しているが、学科協議会等での審議は行っていない。	「資料名」 24-C5-3：改善・向上取り組み (成績不振学生面談)

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	<p>受験者数に象徴される本学科の学生受け入れ状況は、少子化の進行とともに減少傾向にあるものの、2005年度の学科開設以来、比較的堅調である。この要因としては、主に下記の3点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入試戦略に対する継続的検討 本学科では、学科主任と入試委員会が中心となって、入試広報課と連携を取りながら入試戦略について通年で検討を継続している。具体的には、各種別入試における合格者数の調整、定員充足率の管理、前年度実績にもとづく次年度入試の定員の割り振りなどである。 2. 積極的な広報活動 学科の広報活動についても、入試広報課と連携を取りながら積極的に取り組んでいる。具体的には、高校出張授業への参加、オープンキャンパスにおける体験授業や個別相談への専任教員の参加、WEB体験授業の担当などに対して、積極的に取り組むことを学科としてのコンセンサスとしている。 3. 在籍学生への手厚い対応 本学科では学年担任が成績不振学生に対する定期的面談に対応するなど、在籍学生の学習支援に対して手厚く対応している。1学年の定員が125名と比較的小規模である本学科は退学率も低いことから、こうした手厚い学生支援が、「口コミ」を通じて堅調な学生募集へとつながっていることも考えられる。
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	<p>上述のとおり、本学科の学生受け入れ状況は比較的堅調ではあるが、今後、少子化の進行とともに状況が悪化する可能性も否定はできない。そうした中、本学科は、「スポーツをとりまく現代社会の諸問題解決に貢献できるより多様な人材を養成すること」を目指して、2024年度より入学定員を125名から165名へと増員するとともにカリキュラムを改編することを計画している(文部科学省申請中)。こうした背景からも、従来以上に入試広報課との連携を緊密にしながら、指定校推薦入試の導入や各種別入試に対する入学定員の割り振りなど新たな入試戦略を立案するとともに、広報活動にもより積極的に取り組むことを検討している。また、各入試における定員の割り振りについては、入試委員会だけでなく学科協議会においても審議する体制を整備する。最後に、新カリキュラムの導入を通じて教育内容を充実させることを通じて学科としての魅力を高め、より多くの受験生確保に努めたい。</p>
--------	--

IV 【改善計画(事業計画)】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B 票№ or 開始 年度	改善計画 (アクションプ ラン)	内容 (改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見>
<p>学生の受け入れ方針は、大学の方針に関連し学力の3要素それぞれに紐づけた形で求める学生像が明示され、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性も考慮されている。これらの方針はすべて学部学科のホームページなどで公表され、各方針との関連性も確認することができる。また、入学者選抜の制度化に関しては、「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」に基づく制度と体制により「入学試験要項」が定められ、公正な入学者選抜を実施していると判断できる。APと各入学選抜試験との関連性もHP上で公開し、各試験の性質に応じた実施対応を行っている。これらにより、学生の受け入れに関する方針の設定と公表、及びそれに基づく入学者選抜の制度や運営は、適切かつ公正に実施していると評価できる。</p> <p>入学者数に関しては、直近の2年ほどは1.10を上回る入学者数となっているが、これは学部全体としての定員確保という戦略的判断と解釈でき、その点を除けば入学定員の設定と学生の受け入れ及び収容定員に基づく在籍学生数は概ね適正に管理されている。</p> <p>また、成績不振学生の情報を学科教員全体で共有し、それらの情報を参考に受け入れ人数を審議するなど、学生の受け入れの適切性を意識した取り組みがなされている点も評価したい。</p>
2023年度<所見>
<p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性も考慮されている。これらの方針は学部学科のホームページなどで公表され、各方針との関連性も確認でき評価できる。</p> <p>入学者選抜の制度化に関しては、大学として「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」に基づく制度と体制により「入学試験要項」が定められ、公正な入学者選抜を実施していると判断できる。これらにより、学生の受け入れに関する方針の設定と公表、及びそれに基づく入学者選抜の制度や運営は、適切かつ公正に実施していると評価できる。</p> <p>スポーツ科学科は過去5年間の入学定員に対する平均比率が1.12、収容定員充足率1.12と堅調である。入試広報課との継続的検討や学年担任が成績不振学生に対する定期的面談に対応するなど在籍学生の学習支援に対して手厚い対応等が奏功していると思料され評価できる。今後も継続した検討及び対応、2024年度からのカリキュラム改正による教育内容の充実、入学定員増等が相俟って入学（収容）定員充足率の維持、向上が期待される。今後も貴学科のブランド力の向上を期待したい。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部署の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部署の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。</p>
C	<p>大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。</p>

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。